



多国籍企業 (MNE)

概要報告の目的：

- EB-148 に対し、2015年の SC-19 以降の MNE に関わる活動を報告する。

関連：

- ✓ 行動プログラム、付属文書 B、多国籍企業
- ✓ MNE との国際協定締結に関する PSI ガイドライン (2012年の EB で採択)

背景：

現在、MNE に関する PSI の取り組みの主な目標は、PSI が世界枠組み協定 (GFA) を結んだ 3 企業、つまり EDF、ENEL、ENGIE において、労働組合と労働者のグローバル・ネットワークを構築することである。このネットワークでは、以下の確保を図る。

- GFA が普及し、PSI メンバーの間で活用されること
- PSI が関わる場面すべてにおいて、労働権と労働条件の擁護と推進、ならびに成長のために GFA を掲げること
- GFA が、PSI が取り組む包括的な政策 (税の正義、腐敗根絶、気候変動政策など) に関する能力養成ツールとして活用されること

この取り組みは、ILO でグローバルサプライチェーンについて現在進められている議論にも関連している (4 点目参照)。

議論：

1. ENEL

PSI は ENEL の労働者を代表する加盟組合と連絡を取り合い、インダストリアルとの協力のもと、ラテンアメリカにおける ENEL の事業展開をマッピングした。ENEL に GFA を守らせるガバナンスとプロセス、レビューを改善させ、同地域での成長に備えた。

2016年2月5日、PSI とインダストリアルは、ENEL の経営陣および ENEL 世界労働委員会コーディネーターとジュネーブで話し合いを行い、これらの問題と関連事項を議論した。議論では、アルゼンチンの PSI 加盟組合 APSEE が提起した労働組合に関わる「被排除者」の問題、ならびに社会対話や団体交渉の推進など合意プロセスに関する国ごとの地域的労使共同研修を支援する機会などが扱われた。PSI とインダストリアルは、2016年4月5～6日、アルゼンチンのブエノスアイレスで、第2回 ENEL ラテンアメリカ・ネットワーク会議を共同開催する。

この会議は、2014年にフォルタレーザで行われた会議のフォローアップとなり、以下を狙う。

- ENEL の PSI およびインダストリアル加盟組合の意識向上と積極的な参加、ならびに ENEL 世界枠組み協定の活用促進を図る
- 公平なローテーション体制を確立し、ENEL 世界労働委員会でラテンアメリカ地域が代表されるような場を確保する
- ラテンアメリカにおいて、ENEL 世界枠組み協定の効果的な実施に向けた、通年のコミュニケーション体制と効果的なシステムを設ける

ENEL の GFA は 2016 年に 3 年目が終了するので、更新の機会が訪れる。PSI とインダストリアルは、次回 2016 年 7 月にローマで予定されている ENEL 世界労働委員会で行われる公式の協定更新にあたり、ENEL の経営陣に文書の調整を行う提案を送る決定をした。

2. ENGIE (前 GDF スエズ)

2015年、GDF スエズは水・衛生事業から撤退し、社名を ENGIE に変更した。第1回 ENGIE 拡大レファレンスグループ (GFA レビュー) が、労働組合の予備会議に先立つ 2016年2月12日にパリで会合した。PSI 加盟組合のオーストラリア公務組合が、ENGIE ヘーゼルウッド工場の代表者らとともに参加した。インダストリアルと BWI メンバーも参加した。この議論により、ENGIE の GFA 協定と OSH 協定が実施され、メンバーが実質的に活用できるシステムを構築する必要があることが明らかになった。フォローアップアクションには、ENGIE から事業の詳しいマッピング資料を入手する要請を行うことなどがある。これにより、GFA が守られるよう、労働組合ネットワークの設置を促し、現行のコミュニケーション体系を押し進めることを狙う。PSI、インダストリアル、BWI も、GFA の重要性を取り上げ、期待される事項のすり合わせを行うために、ENGIE の次期 CEO、イザベル・コシャール氏および新たな事業ユニット責任者と会合を設ける要請をした。GFA は 2016年11月10日に失効する。PSI、インダストリアル、BWI は、企業名の変更も反映させた文書の更新を提案する。次回の ENGIE 拡大レファレンスグループ (GFA レビュー) は 2017年2月にパリで会合する。

3. EDF グループ

EDF グループは、現在再編を行っている。同社は、負債を抱えるアレヴァ社を引き継ぎ、英ヒンクリーポイント C 原子力発電所の高額の費用を抱えるために、厳しい財務状況に見舞われている。EDF の GFA を有意義に活用するうえで大きな障壁となるのが、協定の世界的な適用である。PSI とインダストリアルは、EDF に対し、この問題を次回 2016年7月にパリで行われる GFA レビューで真剣に議論しなければならないと明言した。PSI は、EDF グループにメンバーを有する加盟組合に、協定を自動的に世界的に適用する案 (現在の「自主的な順守」ではなく) を支持するよう呼びかけている。同社がイギリスでの事業のいくつかに対して一方的に考慮しないとされた 6 条と 8 条 (利益分配) については、自己裁量による適用の問題が残る。EDF の現在の事業状態 (ハンガリー事業所の売却とブルガリアのルミナスの買収) を反映させた、GFA 文書の専門的な更新は、今後数か月のうちに完了する

4. 2016年国際労働総会 (ILC) にて、グローバルサプライチェーンに関する ILO 三者会議

今年の ILC では、「グローバルサプライチェーンにおけるディーセントワーク」の一般討議が行われる。この討議は、優先課題の中でもとくに、労働監督と税の正義、公的調達など、公共サービスの主な役割を PSI が唱道する大事な機会である。また、公的機関と公共サービスに十分なリソースを確保し、世界の生産・サービス提供体系全体でディーセントワークを実現する必要性を唱道する大事な機会でもある。グローバルサプライチェーンにおけるディーセントワークに関する PSI の政策ポジションペーパーについては、資料、ディスカッション・ペーパー、ガイダンスという形で、早い段階で提供する。一般討議への参加を希望する組織は、地方政府と多国籍企業担当オフィサーのダリア・シブラリオに直接問い合わせることができる

(連絡先: daria.cibrario@world-psi.org)

5. 公益事業のコミュニケーション・プラットフォームをスタート

非公開のフェイスブックグループを活用した PSI 公益事業ネットワークのコミュニケーション・プラットフォームが始動した。(<https://www.facebook.com/groups/559429457542401/>) エネルギー、水、廃棄物、MNE 分野の PSI 加盟組合とメンバーは、会話や情報共有に参加することができる。

予算面: 2016年度予算案どおり GFA レビューの旅費と宿泊費は、企業が負担する。

次のステップ:

ENEL、ENGIE、EDF グループの工場を直接代表する PSI 加盟組合、またはこれらの企業や他の公益事業 MNE でのメンバー拡大を望む加盟組合は、地域・地方政府および MNE 担当オフィサーのダリア・シブラリオまで連絡する (daria.cibrario@world-psi.org)

- 2016年4月5～6日：第2回 ENEL ラテンアメリカ・ネットワーク会議（アルゼンチン、ブエノスアイレス）
- 2016年5月30日～6月10日：ILC グローバルサプライチェーン一般討議（スイス、ジュネーブのILO）
- 2016年7月：ENEL 世界労働委員会（イタリア、ローマ）
- 2016年7月：EDF 世界労働委員会（フランス、パリ）
- 2017年2月：ENGIE 拡大レファレンスグループ（GFA レビュー）

EB-148 に対し以下を勧告する：

1. 本報告書に留意する。

はい/いいえ